

●教育委員会委員の任命

9月30日をもって任期満了となる、幸山右文委員の後任に引き続き同氏の選任が同意されました。

●固定資産評価審査委員会委員の任命

9月30日をもって任期満了となる、田淵久光委員の後任に引き続き同氏の選任が同意されました。

補正予算

●平成21年度一般会計

平成21年度新冠町一般会計は、既定の歳入歳出予算額から1億7,824万4千円を追加し、総額を54億7,540万4千円としました。

町長行政報告

定額給付金給付事業等の実施結果について

国の景気対策の一環で実施された「定額給付金」及びこれに併せて町民の生活支援と地元消費を促すため、商工会、農協と連携した「新冠町地域商品券発行事業」について、それぞれの実施結果についてご報告いたします。

1点目は、平成21年3月3日から申請の受付を始めた定額給付金給付事業が、国で定めた申請受付期間の6ヶ月を経過し、去る9月3日を以って、受付を終了したところであり、平均収量は半年より多くなっております。2番年においては、8月上旬の天候回復により生育は平年並みに推移しておりますが、一時的な降雨により収穫作業が遅れております。

また、飼料用とうもろこしについては、8月に入ってから好天により平年より草丈が伸長しておりますが、7月の天候不順の影響から登熟は平年より遅れると見込まれております。

次に8月末現在における農作物の販売状況についてご報告いたします。

これから収穫を迎える水稲を除く主要8品目の総販売高は、資料にありますとおり、前年対比11ポイント増の2億5,725万円で、前年を上回る状況で推移しております。

主な要因としては、本町の農作物の中心となり、基幹作物として重要な作目であるピーマンにおいて、前年比4ポイント増の反収となり、また販売単価においても、昨年より高い水準で推移していることから販売金額において、前年より16ポイント、2,577万円増加していることが挙げられます。また、転作地での作付を奨励してきたアスパラにあつては、販売数量、販売金額とも、ほぼ前年並で推移しております。

平成21年7月降雨による被災状況と対応について

本年度は、7月に入ってから降雨日が多く、20[㍓]から50[㍓]程度の日降雨が10回観測され、300[㍓]を超えている状況にあり、管内の7月の雨量は、平年雨量の1・9から2・4倍前後と非常に多くなっていることから、土壌水分量が飽和し、地盤が緩んで土砂災害や洪水が起こりやすい状況で

ろであります。

今回の定額給付金の対象世帯は2,623世帯で、給付額9,185万6千円を予定しておりますが、そのうち給付した世帯は2,576世帯で給付額9,124万円となりました。給付率は世帯で98・2%、給付額では99・3%となり、ほぼ全世帯に給付されたものと考えております。

これも、国の関連法案成立後、給付に關し議会の皆さんのご理解と全職員が一丸となつて、いち早く体制を整え、支給事務を推進した結果と考えております。

次に定額給付金の給付にあわせて行った地域商品券発行事業についてご報告いたします。

この事業は定額給付金の地元消費誘導・拡大による地域活性化策として、商品券1冊1万2千円相当を1万円で販売し、20%割増した地域商品券の発行事業で、発行総数5,200冊で総額6,240万円を予定し取り組んだところであります。

事業は7月16日をもって完了し、商品券の換金は6,234万5千5百円で換金率は、約99・9%であり、販売したほとんどが購買に当てられております。

また、地域商品券について、商工会が独自に地元商店主へのアンケート調査を行ったところ、不況下にもかかわらず、地域商品券により昨年同期より売り上げが増加したと回答した方が約4割、新規の顧客が増加したと回答した方が約3割でありました。さらに、地域商品券の効果があつたと回答した方が約8割と、この事業への高い評価をいただいているところであります。

以上の状況からも、当初の目的でありました、未曾有の世界的不況のなかで、町民

ありました。

この間、7月18・19日の降雨による被災に係る復旧事業等については、7月28日開催の第四回臨時会において関係予算の議決を頂き、現在復旧工事を取り進めているところであります。

さらに、7月27日の夕方から28日未明にかけて、局地的に短い時間に強い雨が降り、最大日雨量で新和38[㍓]、笹山で62[㍓]、最大時間雨量では、笹山において28[㍓]を観測いたしました。この降雨によって、道路・河川の公共土木施設33箇所と明渠排水等農業施設五箇所について被害が発生し、その被害総額は、概ね1億219万円と算定し、被害報告をしているところであります。

これらの被害箇所につきましては、順次復旧する計画で取り進めることとしておりますが、このうち町道13路線の崩土除去や側溝の土砂除去及び町道岩清水新冠ダム線の迂回路設置のほか、河川3箇所と明渠排水5箇所に係る重機借り上げ料並びに岩清水新冠ダム線の路肩及び法面崩落箇所への復旧のための地質調査業務委託料については、公共土木施設等の機能回復のため早急な対応をしなければならぬことから関係予算1,250万円について、7月29日付で専決処分をいたしましたのでご理解賜りたいと存じます。

また、主要道道平取静内線「太陽・若園間」の地すべり地区の道路パトロールにおいて路肩舗装の亀裂、隆起が発見され、現地調査をしたところ法面に変状を確認し、崩壊の危険が想定されることから、7月24日より通行止めの措置をして現在、地すべりの変位観測を継続的に実施するとともに対策について検討中とのことであります。この状況について当該路線の関係地

に対する生活支援と地元消費による地域活性化に貢献できたものと捉えております。このことは、町民の皆さんをはじめ議会議員並びに関係者各位のご理解とご協力によるものであり、心より敬意と感謝を申し上げます。

児童養育センターの運営状況について

心身に障害のある幼児・児童の成長や発育、生活に関する指導や訓練を提供する事業として、当町は近隣町との連携により、平成2年から、静内児童養育センターを設置しサービス提供しております。

児童養育センターは、新ひだか町・日高町との共同運営で、原則として幼児（就学前）を対象とした施設ですが、近年では利用希望者が増加し、学齢期の児童も利用していただきながら、当町では現在31名の児童が利用し、発育や養育に関する効果的指導が提供されております。

利用されている保護者の皆さんからも、その必要性和効果について、高い評価をいただいている養育センターでございますが、利用人員の増加による施設の狭隘化により、運営の見直しが必要な状況となっておりますので、ご報告いたします。

児童養育センターは、約20年にわたり、新ひだか町の事業所を中心にサービスの提供をしておりますが、近年、対象児童の増加により施設面積や、人員体制などにおいて、いずれも許容を超える状況となり、一人あたりの利用回数を調整したり、新規利用希望者の受け入れ制限をするなど、対象者のニーズに充分な対応を図れない状態が続いております。

この問題の解決に向け、3町による対応協議を重ねてまいりましたが、最大の課題である、施設の狭隘化対策において、敷地の問題や継続的なサービス提供の観点か

区住民に対し、通行止めの現状を周知した旨、室蘭土木現業所門別出張所より報告を受けているところであります。

この路線は、地域の重要な生活路線であり、産業・経済はもとより小中学校児童の通学路線となっており、地域に多大な影響が生じていることから、早期復旧や迂回路となる町道の安全対策について西新冠地区5自治会長の陳情がありましたので、町として関係機関に対する早期開通の要望をはじめ、町道の安全対策について速やかに対応する旨を伝えたところであります。

とりわけ、町として当該路線の地滑り災害の地質調査に基づく復旧工法等の決定や復旧期間を考慮すると、一般的に長期間の通行止めが想定されますので、迂回路線となる町道芽呂若園線の交通量の増加が予想され、早急に通行の安全を確保しなければならぬことから、維持補修等の関係経費313万4千円を災害予算と同日で専決処分をしたところであります。

一方、町道岩清水新冠ダム線0・3km地先の路肩及び法面崩落箇所の復旧にあつては、地質調査の結果に基づき公共土木災害復旧補助事業の採択に向け、地滑り調査・確認及び復旧工法に係る調査設計業務委託費を第三回定例会で補正予算を上程することで取り進めておりましたが、北海道から公共土木施設災害復旧事業に係る現地査定が国土交通省と協議の結果、日高管内は9月14日、15日に実施する旨の連絡を受け、現地査定に対応するため、早急に委託業務を発注し、9月上旬までに業務の成果を求めなければならないことから調査設計委託費467万3千円について、8月12日付で専決処分をいたしましたのでご理解を賜りたいと存じます。

第3回 定例会

議会

9月14日に招集された第3回定例町議会は9月17日、全日程を終えて閉会しました。

今定例会では、小竹町長、辻本教育長の行政報告のほか、平成21年度補正予算案等が審議されました。その主な内容についてお知らせいたします。

ら、増築は難しいとの判断に至り、『平成23年度中を目途として、新冠町・日高町それぞれが単独でサービス提供体制の構築について検討していくこと』と結論付けされたところでございます。

当町といたしましては、対象児童が増加傾向にある中、利用回数などに、ご不便をおかけしていることに鑑み、町内においてサービス提供体制を整えることで、検討に入りたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

農作物の生育状況と販売状況について

町の基幹作物であります水稲ですが、北海道統計情報センターによる8月15日現在の道内の作柄状況は「やや不良」が見込まれております。

これは、穂数が6月上中旬の低温、日照不足により分けつが抑制されやや少ないものの、一穂当たりもみ数は6月下旬から7月上旬が総じて高温に経過したこと等から多く、全もみ数は「やや多い」と見込まれますが、登熟は7月中下旬の低温により、稔実への影響が見込まれ「不良」が見込まれていることから、「やや不良」と見込まれているものです。

日高管内におきましては、「一穂当たりのもみ数」が「多く」、「全もみ数」で「やや多い」ものの「穂数」が「やや少なく」、「登熟」で「不良」と見込まれていることから、全体では「やや不良」が見込まれております。

当町においては、去る9月7日、日高農業改良普及センターが実施した不稔調査において、圃場間における差は見られるものの、昨年より不稔が「多い」ことが報告されております。

牧草については、1番草において天候不順により収穫が遅れた圃場もみられ、収穫